

重大漁船海難防止のために

極寒の海への

転落は

準備するかしないかで

生死が分かれる

海中転落したときの水中温度と生存時間の関係

水温	意識不明までの時間	予想生存時間
0～5℃	15～30分	30～90分
5～10℃	30～60分	1～3時間
10～15℃	1～2時間	1～6時間

一般財団法人 海技振興センター「船員の低体温症対策ガイドブック」より抜粋  
青森県周辺海域の冬季の海水温は約3～12℃です。(気象庁ホームページより)

海に転落することは非常に危険です！  
まずは転落防止策をとりましょう。

(機関や舵を使って船首を波に立てる・安定した姿勢で作業をする等)

転落してしまった場合は…？

低体温症や意識不明になる前に、船上に上がる必要があります。





# 転落 してしまった場合

水温の低い海でもがくと体温低下を加速させます。

## いち早く船の上にあがりましょう。

しかし！身体が冷え切った状態で船の縁を掴んで船上にあがることは難しいと思います。

船に上がる手段として

# 梯子 が有効です

作り方は  
こちら！

漁船かわら版で検索！

🔍 漁船かわら版 **検索**

「落水時のために!!縄梯子の作り方」をクリック！



船首取り付け時



船尾取り付け時

## 使用時の注意点

外板と縄梯子の間に隙間ができて縄梯子が触れ回り、姿勢が安定しないため  
船体中央から船尾部分への  
取り付けをおすすめします。

船上に上がる際、上方にスタンションなどがあると  
もち手としてつかんで楽に上がることができます。

体力が無く登れるか不安な場合でも、  
つかまって救助を待つ間の体力温存！

船と一緒にいることで捜索時早期発見につながる効果が期待でき、

携帯電話を防水パックに入れて  
持ち歩けば縄梯子につかまりながら



# 118番

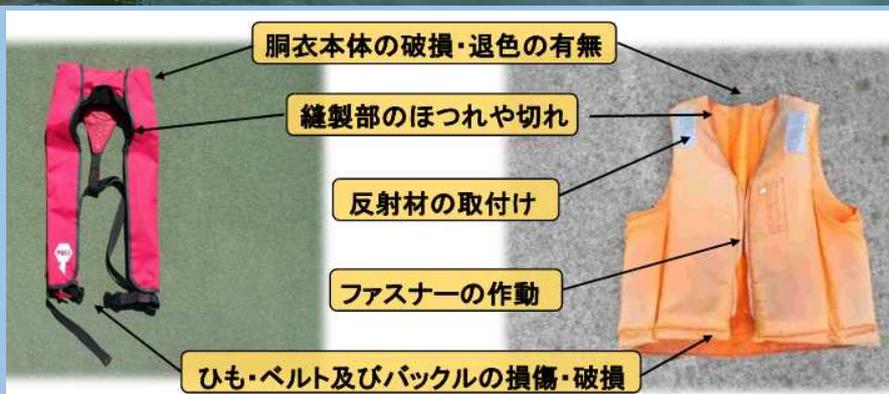
で救助を求めることができます。

正しく  
着ないと  
意味がない！

# 救命胴衣

1 いつ落水してしまうか  
分かりません！

定期的に救命胴衣の  
点検を行いましょ



～膨張式救命胴衣を着用している方～

- ・ポンベは使用済みでないか
- ・作動索が直ぐに引っ張れる状態になっているか
- ・気室布に穴が開いていないか



小型船舶用膨張式救命胴衣「保守・点検」マニュアル  
(日本小型船舶検査機構)等より引用

2 腰のベルトがゆるいと、  
救命胴衣のみが  
浮上し、身体は沈みます。  
最悪の場合、落水した際に  
脱げます。



3 公式の型式承認品

(桜マーク)が入ったライフジャケットを  
正しく着用してください！



救命胴衣の裏側を見てください 3

ローラーへの

# 巻き込まれが 多発しています

## 事件事例紹介

事故者は、ほたて養殖カゴを揚収するため、舷側のドラム式ローラーを使用して枝縄の巻き上げ作業を行っていました。作業終盤、疲れて握力が低下したため、枝縄を**手の甲に絡めるようにして**引き揚げ作業を続けていたところ、不注意で**縄が手指に絡んだままローラーに巻き込まれて**負傷しました。

## 事故防止のために

**作業前には着衣・作業場所の安全確認！**

手袋の大きさ、衣服の裾、足元は安全ですか？

**複数人での作業実施！**

直ぐに機械を停止できる環境作りをしましょう！

**トラブル発生時の迅速な作業中断・安全確認後の作業再開！**

必ずローラーを停止してから作業しましょう！



## 慣れた作業にも危険が潜んでいます

青森海上保安部 八戸海上保安部

青森県農林水産部水産局水産振興課 青森県漁業協同組合連合会